

松井文庫創立40周年記念

武家の嗜み、そして忠義

—文武に生きた筆頭家老・松井家ただいま参上!—



工芸品の鑑賞ポイント

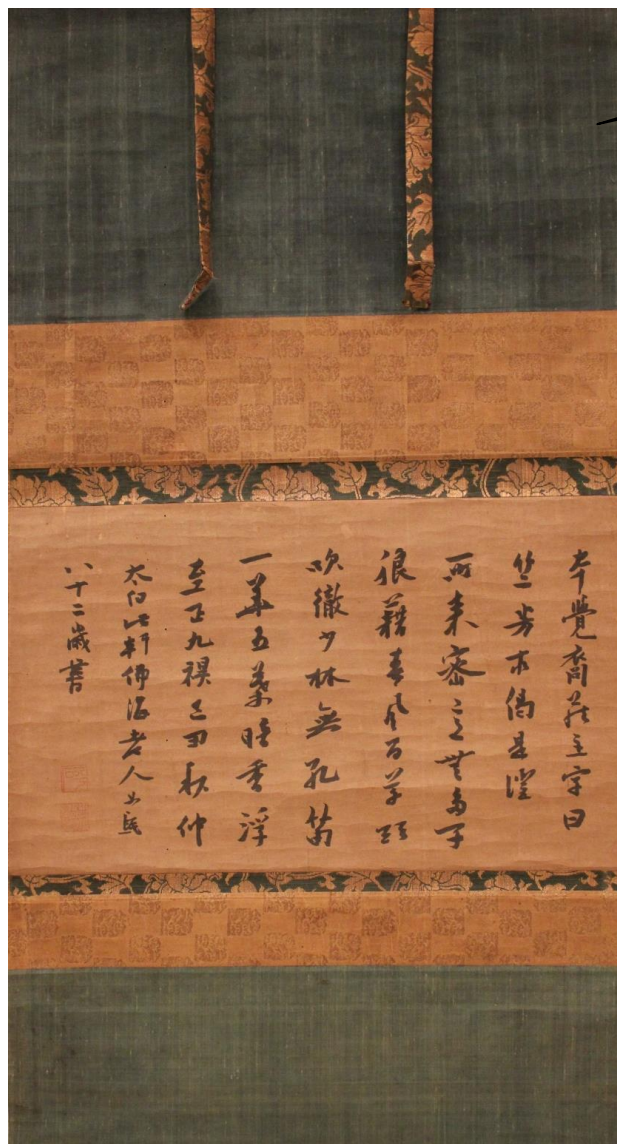
本展覧会には、たくさんの作品が出品されています。
どこを見ていいのか目移りしてしまうでしょう。

そこで、工芸品について、八代市博の山崎おすすめの鑑賞ポイントを5つご紹介します。参考にいただければ幸いです。

1. うさぎを探して
2. 陣羽織のぬいめ
3. あうんの龍
4. 工芸品にみる文学意匠
5. 煙草入の素材の多様さ

1. うさぎを探して

まずは、国指定重要文化財「平石如砥墨蹟」のどこかに「うさぎ」がいます。探してみてください。



第3章

国指定重要文化財

平石如砥墨蹟 (与竺芳祖裔偈・至正九祀己丑秋)

附・玄圃霊三添状并六月三日古田織部書状二通

紙本墨画 縦29.9cm 横 50.6cm

中国・元時代 至正9年(1349) 昭和63年6月6日国指定

平石如砥(1266~1357)は元時代の禅僧で、本墨蹟は日本から入元していた竺芳祖裔(1313~1394)に書き与えたもの。現存する7幅のうち最晩年(82歳)の書。のちに松井康之が手に入れ、叔父で南禅寺の僧玄圃霊三が鑑定し、表装は古田織部による。日本禅林史上、茶道史上、価値が高い。

1. うさぎを探して

見つかりましたか？ 古田織部が選んだ裂に、かわいらしい兎文様が印金（いんきん）という技法で表されています。（近年の修理で少し見えにくくなっているかもしれません。）



花兎文様

印金は糊や漆で金箔を置く、中国伝来の技法で、兎の文様は「花兎文様」とも呼ばれ、茶入の仕覆などに用いられる高級織物でした。

1. うさぎといえは？



銀箔押尖笠形兜

第1章

高さ52.7cm 径24.8cm 桃山時代(16世紀)

天正19年(1591)1月、前年の奥州一揆平定の功により、豊臣秀吉から松井康之が拝領した兜。康之の肖像画に描かれている。兜の後ろには兔の耳形の後立がついている。



第3章

古田織部書状

縦34.0cm 横51.5cm 6月3日付 慶長15年(1610)カ
古田織部が康之から、平石如砥墨蹟の表具を依頼され、仕立てたことが記されている。

古田織部が選んだ表具裂(ひょうぐきれ)に兔文様がついているのは、まったくの偶然だと思います。が、兔耳の兜を賜った康之のために、兔文様をわざわざ選んだとしたら？実は康之はラッキーアイテムとして兔グッズを集めていたとしたら？織部はそのことを知っていたとしたら？などと妄想しながら、この表装ができあがったときの二人の会話を想像してみてもいいのではないでしょうか。

1. その内容もすばらしい！

国指定重要文化財

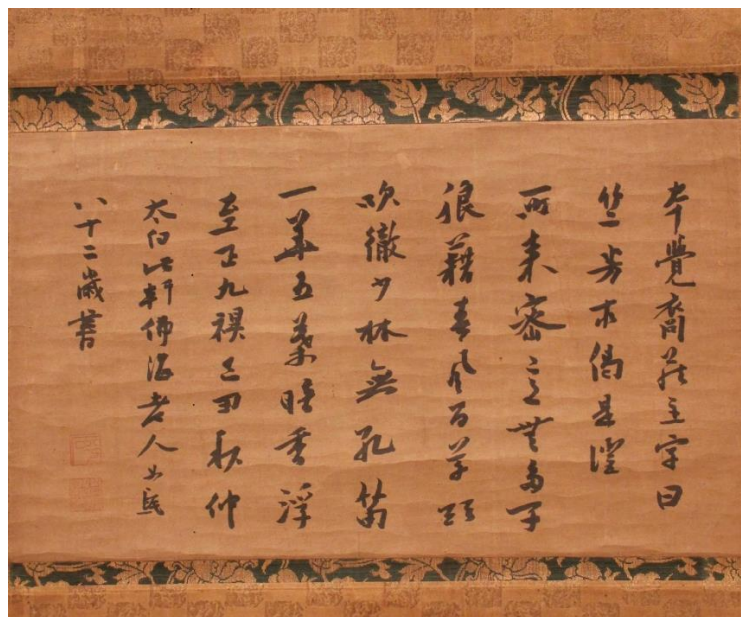
第3章

平石如砥墨蹟（与竺芳祖裔偈・至正九祀己丑秋）

（意訳）

あなたが学んだ（天竺の）よい教えを
広めることにつとめなさい。そうすれば、
暗闇に美しい花が浮かび、（芳しい）
香りが広がるでしょう。

先生からこんな「贈る言葉」をもらって、竺芳も嬉しかったでしょうね。



本覚裔藏主字曰
竺芳示偈是證
西来密意無多子
狼藉春風百草頭
吹徹少林無孔笛
一華五葉暗香浮
至正九祀己丑秋仲
太白此軒佛海老人如砥
八十二歲書

本覚（ほんがく）の裔藏主（えいぞうす）、字（あざな）を竺芳（じくほう）と曰（い）う
偈（げ）を示（しめ）して是（これ）を證（しょう）す
西来（せいらい）の密意（みつゐ）は、多子無（たしな）し
狼藉（ろうぜき）たる春風（しゅんぷう）、百草頭（ひやくそうのとう）、少林（しょうりん）の無孔笛（むくうてき）を吹徹（すいてつ）して一華五葉（いつけごよう）、暗香（あんきよう）（浮かぶ）
……以下省略

2. 陣羽織のぬいめ

第1章

松井興長肖像



第1章

緋黒羅紗段替陣羽織

丈106.6cm 肩幅61.0cm 江戸時代前期(17世紀)

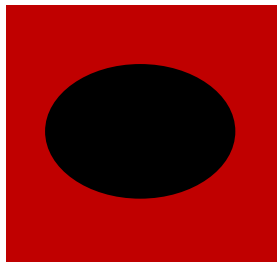
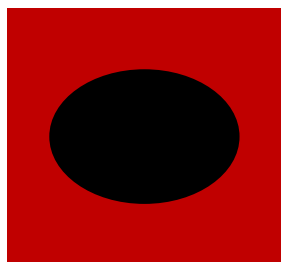
寛永13年(1636)の江戸城普請で細川藩の総奉行をつとめた松井興長に、徳川家光が褒美として与えたもの。興長はこれを着用した姿で肖像画に描かれている。

2. 陣羽織のぬいめ

緋羅紗と黒羅紗が縞模様になった斬新なデザインの陣羽織です。緋羅紗と黒羅紗の間は、細かい針目で縫い合わせてあります。この技法を切嵌（きりばめ）といいます。



切嵌（きりばめ）と切付（きりつけ）の違い



切嵌は、緋地と黒地の切断面を縫い合わせ、段差がない。



切付（きりつけ）は、現代のことばでいえば「アップリケ」です。

この陣羽織が、とほうもない手間をかけて作られていることを実感していただきたいと思います。どんな人が、どんなところでこれを作ったのか？ 誰がこのデザインを決めたのか？ 想像がふくらみます。

陣羽織の緋羅紗と黒羅紗の縫い部分拡大写真

“誉の陣羽織”原寸大復元プロジェクト

～令和3年4月、コロナ禍で休館・閉会となってしまった展覧会の裏側で～



この陣羽織が、どうやって作られているのかずっと気になっていたの、コロナ禍の休館中、復元してみました。

“誉の陣羽織”原寸大復元プロジェクト

～令和5年度冬季展「武将の備え」で興長さんなりきりコーナーとして活用～



実際に着用すると、裾に向かって美しく広がる、着姿のよい陣羽織であることがわかりました。



3. あうんの龍

第2章

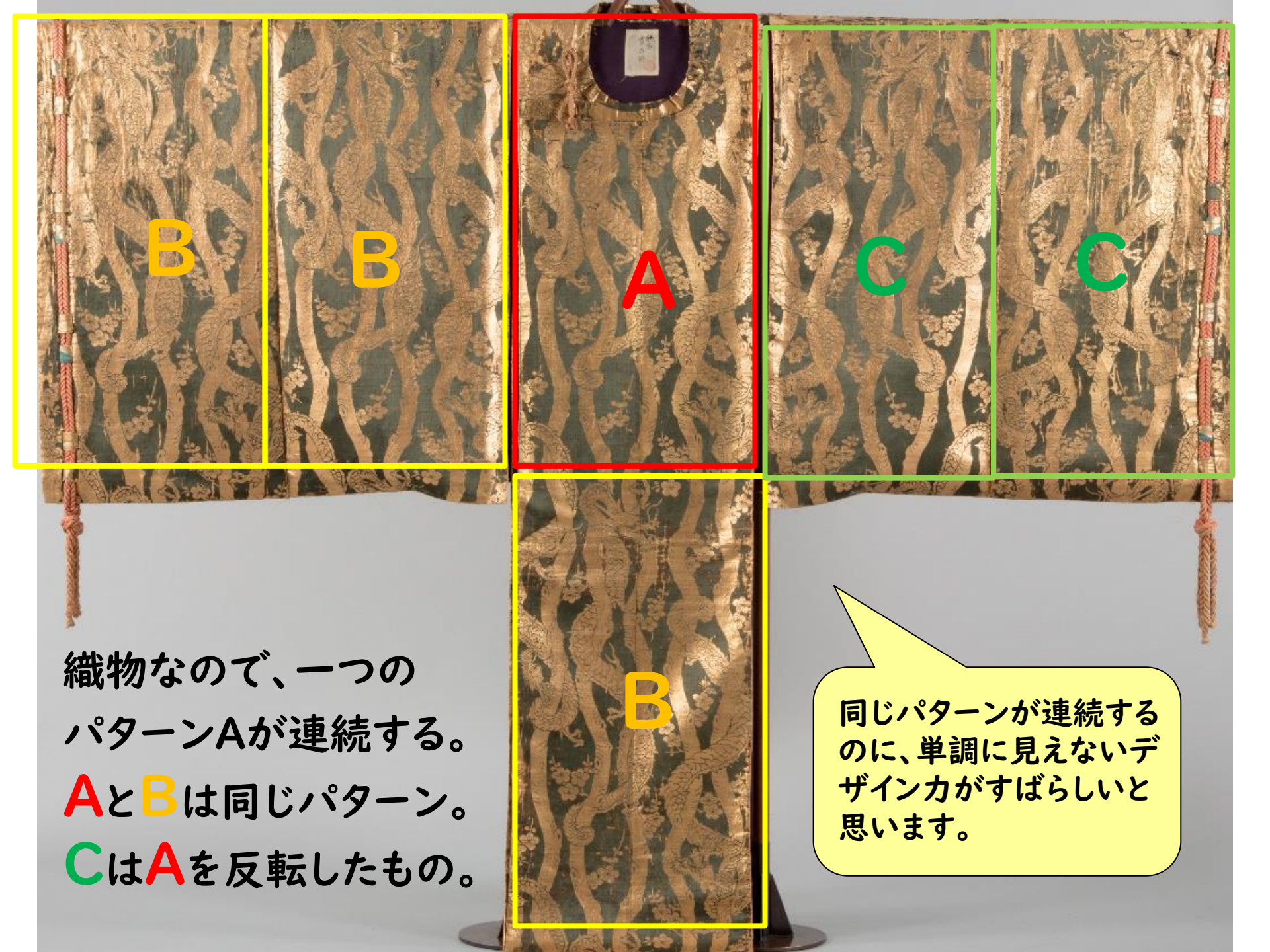


能装束 濃萌黄地梅樹立湧龍 模様袷狩衣

身丈167.0cm 衿125.0cm 江戸時代(18-19世紀)

雲気が立ち上る様子を表す立粹文を梅樹で表し、そこに阿吽の頭部を持った上り龍と下り龍を絡ませている。松井文庫所蔵能装束中屈指の一領。昭和39年京都国立博物館「能装束展」に出品。

口をあけた「阿形(あぎょう)」の龍と、口をとじた「吽形(うんぎょう)」の龍があるので、見つけてみてください。



B

B

A

C

C

B

織物なので、一つの
パターンAが連続する。
AとBは同じパターン。
CはAを反転したもの。

同じパターンが連続する
のに、単調に見えないデ
ザイン力が素晴らしいと
思います。



織物の能装束を見ると、どこからどこまでが一つのパターンか探すとよいでしょう。じっくり鑑賞することができ、そのすばらしさを味わうことができます。

第2章

紅地源氏香図枝垂桜模様唐織

第2章

濃茶地変菱繫松竹桜模様唐織



A decorative border at the top of the slide featuring a repeating pattern of stylized flowers and leaves in various colors (blue, green, yellow, and brown) on a textured, golden-brown background.

T 工芸品の楽しみ方

- 細部をじっくり見る。
- どうやって作られているか観察する。

とほうもない手間をかけて作られていることがわかる。難しいことに挑戦している、限界を乗り越えようとしている作り手の気配が感じられ、感銘を受ける。

4. 工芸品にみる文学意匠



絵画や衣装、調度品には文学ゆかりの文様が多く見られます。それらは、能楽や香道などとも関係し、当時の人々の暮らしを豊かにしていました。

4. 工芸品にみる文学意匠



謡曲「通小町」

謡曲「小督」

謡曲「菊慈童」

とくに、武家女性が着用した着物（「小袖」と呼ばれる）は、古典文学や能楽に由来する模様が多く、「御所解（ごしょどき）文様」と呼ばれます。松井文庫にも、御所解文様の小袖が多く残っています。

5. 煙草入の素材の多様さ



更紗や印伝革、べっ甲、象牙、珊瑚、金水晶など、多種多様な珍しい素材を用いた、趣向を凝らした「煙草入」が数多く残っているのも見どころです。JTが協賛している所以です。

[協賛]





松井文庫創立40周年記念 武家の嗜み、そして忠義

—文武に生きた筆頭家老・松井家ただいま参上!—

工芸品の鑑賞ポイント まとめ

松井文庫に残る工芸品は、**松井家**の歴史だけでなく、江戸時代の**わが国の文化**の様々なありようを私たちに教えてくれる貴重な作品群である、といえます。

熊本県美と八代市博の40年にわたる調査・研究の成果をギュッと集めた展覧会です。ぜひ多くの方々にごらんいただき、その素晴らしさを知っていただけますなら幸いです。



松井文庫創立40周年記念
武家の嗜み、そして忠義
 一文武に生きた筆頭家老・松井家ただいま参上！
工芸品の鑑賞ポイント

本展覧会の「第2章 武家の嗜み—能面と能装束—」
 「第4章 武家の婚礼—彩どりと輝き—」「第6章 贅を尽
 くした美と密かな遊び心」は、かつて八代市博で開催した
 下記の特別展に出品したものです。

本資料をごらんいただき有難うございました。



八代市立博物館未来の森ミュージアム 学芸員 山崎摂